

インターネットバンキングのフィッシング対策ソリューションはお客様にとって手間がかからず、わかりやすいことが重要。



導入企業

株式会社常陽銀行

- 設立: 1935年7月30日
- 資本金: 851億円
- 従業員数: 3494名
(2007年3月31日現在)

- 本社所在地:
茨城県水戸市南町2丁目5番5号
- 事業内容:
預金業務、貸出業務、外国為替業務、
証券業務、信託代理業務

導入概要

- 導入ソフトウェア
フィッシング詐欺対策ソリューション:
PhishWall Server (セキュアブレイン)
- サイト規模 (アクセスジェイ)
約200ページ
- 月間ログイン数
約55,000回
- 登録会員数
約5万人
- プロジェクト期間
検討約2ヶ月間 (2007年1~2月)
導入/テスト/稼働まで約10日間



地域の発展に確固たる足跡を残している株式会社常陽銀行では、2007年1月、地銀共同化システム稼働を機にインターネットバンキングの24時間サービスを開始。そして同年6月、お客様にフィッシング詐欺を未然に防いでいただけるよう、セキュアブレインのフィッシング対策ソリューション「PhishWall Server」を導入した。

お客様が接続したWebページが常陽銀行の真正なインターネットバンキングサイトである場合、ブラウザ上に緑のシグナルを表示するので、お客様はひと目で本物のWebサイトであることがわかる。最新OSのWindows Vistaまで、お客様PCの動作環境を広く保証していることも大きな決め手になったと言う。

今年1月、地銀共同化システムを稼働 充実したインターネットバンキングを実現

2007年1月、常陽銀行は、お客様ニーズへの対応力強化とシステムコストの削減のため他の地方銀行と進めていた地銀共同化システムを稼働させ、その上でインターネットバンキングサービス「アクセスジェイ」のサービスを拡充した。地銀共同化システムは、サーバなどはセンター内に地銀ごとに独立して構成するため、システム構築の自由度が比較的高く、個別のニーズを組み込めるようになっている。「共同化システム移行後は、インターネットでのオンライン申し込みのほか、定期預金や外貨預金などへとサービスメニューをさらに拡充しました。また、画面構成の最適化や操作性の向上も図っています」と語るのは個人事業部ダイレクトバンキンググループ調査役の関敦志氏。セキュリティ対策の強化も推進施策として進められたと言う。

セキュリティ対策に力を入れていても 標的にされると怖いフィッシング

ログインパスワードと乱数表による2要素認証、Webサイトによる安全なインターネットバンキング利用の啓発など、セキュリティ対策に力を入れてきた常陽銀行が今一番気になるのが成りすました。犯罪者が契約者に成りすますためには、本人認証をクリアするIDやパスワードなどの認証情報を盗まなければならない。

その主な手段は2つ。スパイウェアやウイルスを使って盗み出す、あるいは、フィッシングによって本人に教えさせることだ。システム部開発運用グループ調査役の鈴木雅典氏は「犯罪者から見ると、スパイウェアやウイルスをばらまいて認証情報を盗むのは効率が悪い。その点フィッシングはピンポイントで特定のWebサイトの利用者が狙い撃ちされるので非常に怖い」と言う。

巧妙に偽装されたフィッシングを 簡単に防止できるようにしたい

フィッシングを防ぐのは簡単ではない。それは、利用者が自分で意識して、ひっかからないようにしなくてはならないからだ。サイトごとに信頼済サイトとしてIPアドレスを登録しておくのは、利用者にとってわずらわしい作業だ。また、目的のWebサイトにアクセスするたびに、開いたページのURLを確認する手法では、正しいWebサイトかを見分けるのは非常に困難だ。「フィッシング対策は利用者に依存する場合がありますが、PhishWallのクライアント用ソフトは無料で、利用者が一度インストールするだけで他に手間はかかりません。そこが一番大きいところだと思います。インターネット上のどのWebサイトに行っても、ブラウザ上に緑のシグナルが出ているかぎり、お客様は騙される心配がありません」(関氏)。

SecureBrain PhishWallとは

PhishWallは、顧客が接続したホームページが本物であるかどうかをチェックして、その安全性を顧客のブラウザ上に表示するシステムです。

企業がPhishWall Serverを導入すると、自社のWebサーバの安全性を顧客のブラウザ上に「緑」のシグナルで表示することができ、顧客は一目でそのホームページが本物だと分かり、安心してインターネットを利用できます。

自社のWebサーバが「本物」である事を顧客に対して証明でき、信頼を高めることができる画期的なフィッシング詐欺対策です。

SecureBrain® PhishWall® Server



PhishWall 対応のWebサーバ

SecureBrain® PhishWall®

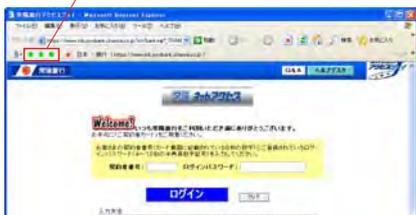
PhishWall 対応のホームページにアクセスすると
ツールバーに「緑」のシグナルを表示



ユーザ

セキュアブレインがクライアント用のPhishWallを無料で配布し、標準ツールとして普及させていきたいと思っている理由もそこにある。

Webサイトの真正性を証明する「緑」のシグナル



「利用者の手をわずらわせることなく、フィッシングという脅威が存在することを利用者に意識させるという点でも画期的なソフトだと思います」(鈴木氏)。

PhishWall選定の決め手は お客様の使いやすさと低コスト

常陽銀行がフィッシング対策を検討し始めたのは2005年。その頃、国内初のフィッシング詐欺が警察庁で確認され、銀行を舞台としたフィッシング詐欺事件が発生したことは、銀行業界にかなりのインパクトを与えた。

当時はシステムとコストの面で障壁がありPhishWall採用には至らなかったが、常陽銀行の要望を反映する形で2006年9月、新たな認証機能を追加したPhishWallの新バージョンが登場。そこから事態は進展し、数社のフィッシング対策製品で比較検討が行われた。



個人事業部
ダイレクトバンキンググループ
調査役 関敦志氏

「真正サイトの証明という点では、いずれも大差はありませんでしたが、使い勝手やサポートの部分ではPhishWallが他社製品を大きくリードしていました。特に、PhishWallに関するお客様からの問い合わせを一次受付からセキュアブレインでやってくれるというのが心強かったですね。当行のダイレクトバンキングの

ヘルプデスクで答えられないような専門的なことを尋ねられたときにも安心です」(関氏)。お客様の視点で各フィッシング対策ソフトをダウンロードして試用した結果、一番ユーザビリティが優れていたのがPhishWallだった。

PhishWallが選ばれた理由は次のとおり。

- ・真正サイトにアクセスしているときは、色(緑のシグナル)と点滅で視覚的にわかりやすく表示
- ・導入コストが低い
- ・お客様はPhishWallのクライアント用ソフト(無料)を一度インストールするだけであとは何もしなくていい
- ・機能が複雑でなく、利用者の混乱を招かない
- ・お客様PCの動作保証環境が広い
- ・お客様からのお問い合わせはセキュアブレインの専用デスクがフリーダイヤルで直接対応

利用者保護を主眼とする金融庁の 監督指針を高いレベルでクリア

2007年1月に金融庁から発表された監督指針の改正では、フィッシング詐欺対策強化の一環として、真正なWebサイトであることの証明についての記載が追加されており、今回のPhishWallの導入はこれを高いレベルでクリアするものとなった。

「SSLの証明書をお客様にご確認いただくことが基本ではあるが、お客様の負担が大きいため当行としてはそこで止りたくなかった。また、Windows 98のお客様もいらっしゃるの、そういう方々を置き去りにするのも当行の理念に反しますし、その点、PhishWallだけがWindows 98から最新OSのWindows Vistaまで対応していたのは良かったですね。システム的にもHTTPやHTTPSを使ってデータをやり取りするだけで特別なポートを開ける必要もなかったため、当行のシステムとも親和性が高いと判断できました」(鈴木氏)。

導入もメンテナンスも容易 導入作業はテストを含め約10日で完了

選定作業に2ヵ月をかけた常陽銀行だが、PhishWallの導入作業はテスト環境の構築からテスト完了まで約10日間で完了。Webサーバへのファイルコピー、主要ページの動作確認

という簡単な作業で終了した。

PhishWallでは1回使用した認証ファイルは二度と使用しない。そのため、年に1回、認証ファイルセットを全て入れ替える。それが運用開始後のメンテナンスとなるのだが、セキュアブレインが発行する認証ファイルセットのCDからデータを移すだけの簡単作業だ。サーバの定期メンテナンス中に行えるので負荷はほとんどないといっよい。

PhishWallの導入実績と セキュアブレインの力量を高く評価

信用を重んじる銀行で、新興会社の新しい製品を採用することに不安はなかったのだろうか。「導入実績を見ても、大手カード会社などですでに運用され問題も起きていないようですし、利用者の数も120万人を超えています。会社の情報やトップの方の経歴などを拝見しても、

大手コンピュータメーカーや大手セキュリティソフト会社での経験が豊富なので信用できると判断しました」(鈴木氏)と、これまでの実績に加え、セキュアブレインがインターネットセキュリティ業界で経験を重ねたスペシャリスト集



システム部 開発運用グループ
調査役 鈴木雅典氏

であることの強みを評価されている。PhishWallの銀行への導入は常陽銀行が最初だが、その後、数行への導入が予定されている。

「インターネット犯罪について知らない人が多く、危険性を知らないままインターネットを利用している人も多い。緑のシグナルを使うPhishWallは、そんな人たちを視覚的に啓発する力がある」と鈴木氏。「今後、セキュリティは時間との勝負になってくる。セキュアブレインには、セキュリティパートナーとして引き続き最新情報や動向を紹介してもらいたい」と関氏はインタビューを締めくくった。

株式会社セキュアブレインとは

株式会社セキュアブレインは、成田明彦(元シマンテック社長)を核にインターネットセキュリティ業界で経験を重ねたスペシャリストが参画して設立されました。私たちは独自のセキュリティシステムとソフトウェアを日本から世界に向けて発信してまいります。

事業内容

1. インターネットにおけるセキュリティシステムの構築
2. 「オンライン詐欺」に関連する防御ソリューションの開発・販売・サービスの提供
3. インターネットセキュリティに関する情報の提供および情報処理サービス
4. インターネットセキュリティに関する人材の育成および教育
5. コンサルティング業務

株式会社セキュアブレイン

http://www.securebrain.co.jp/
〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル7F
TEL.03-3234-3001